

1 研究主題

人との関わりを広げる授業づくり ～集団学習の充実を目指して～

2 研究テーマ設定の理由

昨年度までの研究において、あすなる分教室では、新学習指導要領の改訂のポイントである「主体的・対話的で深い学び」について、児童生徒の実態から「主体的に学ぶ姿」を「人との関わりを広げる姿」として捉え、授業実践を積み重ねてきた。

今年度からの2年研究においては、これまでの研究成果を土台に授業実践を行い、全校研究テーマ及びあすなる分教室の児童生徒一人一人の「豊かな学び」にせまっていく。特に集団学習に焦点を当て、人との関わりを広げるための指導の充実を目指し、このテーマを設定した。

3 研究方針

- ・「人との関わりを広げる授業づくり」の実践と蓄積をとおして研究を進める。
- ・集団学習（行事・自立活動「あすなるタイム」など）を取り上げ、実践の蓄積を図るとともに、見直しを行う。また、授業研究会を行い、より有効的な指導方法等について検討する。
- ・病棟でベッドサイド学習をしている児童生徒と、あすなるホールをつなぐオンライン学習の回数を増やし、普段、関わりが少ない児童生徒・職員との交流や、集団学習への参加ができるようにする。授業後の児童生徒の様子について共通理解を図りながら、オンライン授業の記録を蓄積していく。

<1年次>

- ・アセスメントチェックリストによる児童生徒の実態把握・共通理解を図る。課題整理シートで「人との関わり」に関係する項目をピックアップし、指導目標をより具体的に立てる。
- ・年間指導計画や年間行事予定から、集団学習として取り組む学習活動・今年度取り上げる授業をピックアップする。また、全校に授業を公開し、授業研究会を行う。

- ・授業においては、個別の指導計画、単元目標、本時の目標、その授業に特化して集団学習でねらいたい姿やつけてほしい力、支援の手立てを具体的に挙げて検討し、職員間で共通理解を図る。
- ・上記の振り返りや評価を行い、成果や課題を次の授業及び次年度に生かす。

4 推進計画

1年次目の研究推進計画について示す。

月 日	研究活動	内 容
4月21日	第1回全校研究会	
5月17日	グループ研究会	研究の進め方について検討・確認
6月29日 ～7月 1日	グループ研究会	アセスメントチェックリストを用いた児童生徒の発達段階について (共通理解)
7月21日 26日	グループ研究会 学部研修会	「夏まつり」授業検討 「移動式プロジェクター一体式スクリーンの使い方について」
9月5日	グループ研究会	「夏まつり」評価
9月12日	グループ研究会	研究授業について①
10月24日	グループ研究会	研究授業について②
11月11日 17日 18日	グループ研究会 ICT研修会 研究授業	研究授業について③ iPad 事例研究会 「自立活動 あすなるタイム ポッチャをしよう」
12月20日	授業研究会	あすなる分教室・山目校舎わかば・中学部合同授業研究会
1月23日	グループ研究会	グループ研究のまとめ
2月14日	第2回全校研究会	グループ研究の発表、全校研究のまとめ

5 研究実践

- (1) アセスメントチェックリストを用いた児童生徒の発達段階についての実態把握及び共通理解について

あすなる分教室では、「重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト-認知・コミュニケーションを中心に-（広島県立福山特別支援学校V e r 5）」を利用して児童生徒の実態把握を行っている。このチェックリストはV e r 9に改訂されているが、あすなる分教室の児童生徒の実態から、V e r 5を引き続き利用し、年度初めに担任がチェックしたものを職員全員で共通理解し、授業へと生かしている。一つのシートを3年間使い、長いスパンで児童生徒の発達をみるようにしている。

昨年度までは、登校後、毎日全員で取り組む「始まりの会」に焦点を当て、人との関わりを広げる授業の在り方について研究してきた。

今年度は、その視点を、集団で行う他の授業に広げ実践するため、一人一人の実態を踏まえて、集団と関わるための課題を具体的に立て、共通理解を図った。

<チェックリスト一部抜粋>

3 指導内容記入表（課題整理シート）

分野	領域	発達段階	領域番号・課題とする項目	具体的な指導目標支援	支援・留意点
コミュニケーション	人間関係	VII	52 他の子供に関心を示し、自分から関わる	・友達の顔や名前が分かり、教師と一緒に確認しながら物を手渡すことができる。	・写真カードを使い顔と名前を確認する ・教師が「○○さんだよ」と、注目できるような声掛けをしたり手で示したりする。 ・ものを友達に手渡すなどのやりとりを活動に取り入れる。

授業を想定しなるべく具体的に記載

(2) 授業実践について

あすなる分教室の児童生徒全員で取り組む行事や学習の中から、研究授業の対象になりうる学習活動について、下記の観点からピックアップし研究授業を行うことにした。

- ・単発の行事や単元ではなく、一定期間繰り返して取り組む学習活動であること（行事の取り組みを含む）
- ・友達や教師との関わりを存分に味わいながら活動できる内容であること
- ・あすなる分教室の特色のある学習活動であること

<今年度の集団学習>

月	行事・学習活動等	備考
4	入学・進級おめでとう会	・オンライン授業実施
5・6	運動会	・運動会当日BS児童生徒直接参加
7・8	○夏祭り	○研究対象・BS児童生徒直接参加
9・10	清明祭	・BS児童生徒直接参加
11	◎あすなるタイム1	◎研究授業「ポッチャをしよう」
12	クリスマス会	・オンライン授業実施
1・2	○あすなるタイム2	○研究対象・オンライン授業
3	卒業おめでとう会	・オンライン授業予定

(○研究対象として取り上げたもの、◎研究授業)

ア 「夏祭り」

「夏祭り」は、毎年、夏休みに入る前に行う、あすなる分教室の特色ある学習活動の一つである。2日間の開催で、今年度は、各学部・学年が一つずつ出店を準備した。1日目は、盆踊り（くるくる音頭）、ローテーションを組んで各出店を回り、出店の店員・お客さんとして、趣向を凝らした各店を楽しむ活動を行った。2日目は、前日回り切れなかった出店を体験したり、出店の前で写真撮影をしたりした後、花火大会（アプリを使って手持ち花火を楽しむ、スクリーンで打ち上げ花火を見学する）を体験した。

事前学習では、出店の準備・出店紹介・売り子の練習などを、各クラスまたは全員で行い、当日に備えた。祭りの初日にみんなで踊る「くるくる音頭」も繰り返し練習し、当日は浴衣や半纏を着て、お祭りの雰囲気を楽しみながら踊ることができた。

小学部 魚釣り



中学部 富菜斗屋 (食べ物屋)



高等部1・3年 くじびきや



高等部2年 ひむろや



また、出店活動においても、店員として友達とやり取りする、出店でお客さんとして活動を楽しみ、笑顔や言葉で楽しい気持ちを伝える、気に入ったお店を再び訪れるなど、祭りを楽しみながら友達や教師と関わる姿を見ることができた。

夏祭りの学習活動をきっかけに、これまで関わりが少なかったが、学年を越え、お互いを意識し合っ学校生活を送るようになった生徒もいる。

個々の活動を支え、ねらいを達成するための支援の手立てや工夫について、事前に職員間で共通理解を図っていたが、「友達同士の関わりを意識しすぎ、祭り本来を楽しむための支援がおろそかになってしまった」という反省も上がった。しかし、児童生徒が日々の学習に意欲的に取り組む姿もたくさんみられたことから、「夏祭り」は有効な学習單元であることが確認できた。

イ 自立活動「あすなろタイム」

あすなろタイムは、「体を動かすゲームや遊びをとおして、人とかかわる力を育てる」ことを目的として、以下の観点を大切にし、単元計画を組んで実施している。

- (ア) 児童生徒ができることを生かす
- (イ) 相手を意識できるような活動・場面設定をする
- (ウ) 同じ題材を繰り返して実施（最低2回）とするが、題材計画、流れ、活動に発展性をもたせる

今年度は、「ボッチャ」と「正月遊び」を題材に取り上げ、授業を行った。

「ボッチャをしよう」は、運動会で取り組んだ競技・ルールで、全3回の授業を計画した。過去に経験している活動であったこと、生徒から「またやりたい」という声が上がっていたことから、見通しをもってスムーズに活動に取り組むことができた。

授業においては、よりよい指導・支援を目指し、以下のように手立てを講じた。

- ㊦教材教具の工夫（使用する補助具の精度の向上、的の改善）
- ㊧場の設定の工夫（投球の位置、的の並べ方）
- ㊨教師の関わりの工夫（投球時の支援の仕方、声掛け）
- ㊩活動の流れの工夫（授業の流れ、BGMで活動を切り替える）

また、「人との関わりを広げる」ための指導のポイントを、以下のように設定し、支援を工夫した。

- ㊪くじ引きで二つのチームに分かれ、同じ色のくじを持っている友達を探したり、チームの中でリーダーや投球順を決めたりする。
- ㊫チーム、リーダーを固定化し、同じチームの友達を意識できるようにする。
- ㊬投球順や、人数合わせのために多く投げる人などを、チームの中で相談して決める。
- ㊭応援で、友達との関わりがもてるようにする。

各学級で自主練習を行うことで、ランプスに上手に球を載せられるようになった生徒、ランプスから球が外れると悔しがると生徒など、技術や気持ちの面での変化がみられた。

チームを固定したことにより、誰と同じチームなのか、リーダーは誰かを意識して取り組めた生徒もいた。ゲームでは、自分の投げた球、友達が転がした球を目で追っている様子もみられ、自分の出番だけでなく、みんなで参加している雰囲気があった。

今後の「あすなるタイム」の授業においても、次の4つの視点を大切に充実した学習活動を展開していきたい。

- 題材選定の吟味
- 児童生徒にとって分かりやすいルールの工夫
- 繰り返しの活動
- 支援の工夫

<研究授業と研究協議>

日 時：令和4年11月18日（金）
 対 象：午後グループ
 小学部4年女子1名、5年男子名
 中学部2年男子1名、3年女子1名
 高等部2年女子2名 計6名
 場 所：あすなるホール
 指導者：木村(T1)、大和田(T2)、竹田(T3)
 小山(T4)、八重樫(T5)、佐藤(P)

- 1 単元名「ボッチャをしよう」
- 2 本時のねらい
 - (1) 友達との集団学習を楽しみ、友達と関わったり、友達からの関わりを受け入れたりできる。
 - (2) 自発的に、または教師の支援を受けて、体を動かす。
 - (3) 個々に応じたやり方で、球を的に向かって転がすことができる。
- 3 本時の展開（※研究部フォルダ 校内研究 指導案 あすなる分教室 参照）
- 4 評価の観点
 - (1) 本時の評価
 - ア 友達との集団学習の雰囲気を楽しみ、友達を意識して活動することができていたか。
 - イ 自発的に、または教師の支援を受けて、体を動かすことができていたか。
 - ウ 個々に応じたやり方で、的に向かって球を転がすことができていたか。
 - (2) 支援の手立ての評価
 - ア 友達との集団学習の雰囲気を楽しみ、友達を意識して活動することができる状況づくりができていたか。
 - イ 自発的に、または教師の支援を受けて、体を動かすことができる状況づくりができていたか。
 - ウ 個々に応じたやり方で球を転がし、的に入れることができる状況づくりができていたか。
- 5 評価（よくできた◎ できた○ もう少し△）

本時の評価		支援の手立ての評価	
ア	◎	ア	◎
イ	◎	イ	◎
ウ	◎	ウ	◎

※個人の評価については授業研究会資料1参照
- 6 研究協議
 - (1) 授業者について（授業者から）

運動会の競技で取り上げたポッチャを、あすなろタイムの授業で再び取り上げた。もっとやりたい、という生徒の声と、あすなろの児童生徒の、活動を繰り返すことでルールを理解し、見通しをもって活動に取り組むことができるという実態から、ポッチャを取り上げ、ルールや教具も大きく変えずに取り組むことにした。どのラインからの投球だとの的に入り、達成感が味わえるのか、自分で投球する、またはランプスを使う、など、一人一人が自分の力を十分に発揮しながら取り組めるように工夫した。的は大・中・小を用意し、入りにくいものほど高得点に設定し、見えにくい生徒でも球が的に入ったことが分かるように鈴を付けて音が出るようにした。ほとんどの生徒が点数の高い的に狙う傾向にあった。「人との関わり」については、くじでチーム分けを行い同じグループの友達を意識する、リーダーや順番をグループごとに決める、お互いを応援し合いながらゲームに臨む、というところを指導者側が意識した。

<授業について 公開授業・ビデオ等で参観した先生方からの意見>

●教材教具の工夫

良かった点

- ・じゃんけん以外で先攻後攻を決める方法（さいころ）
- ・ランプスの工夫
- ・得点板。誰がどのくらい得点したか分かりやすい。
- ・ボールが的に入ると音がする工夫。物の動きを追ったり注視するのが難しい生徒に良い工夫だった。

☆教師の関わり工夫

<良かった点>

- ・職員の雰囲気がとても良い。
- ・声掛けに活気があり、楽しい雰囲気になっていた。

★場の設定の工夫

<良かった点>

- ・Fさんが投球するとき、応援のためにみんなで前に移動するのが良かった。
- ・今年の、両側からジャックボールを狙うゲームと違って、みんなが見えてルールが分かりやすい。
- ・限られたスペースの中で児童生徒が全体を見ることのできる配置になっていた。
- ・それぞれのできる方法を編み出して、その上でうまくいく状況をつくり出しているところが、準備や打ち合わせ、教師のチームワークのすばらしさだと感じた。

<改善点・改善案等>

- ・ボールやT1の動きに注目して視線が動いていた。何点だったか見やすいように、得点板の近くに並ぶのがよいか？ 正隊して並ぶのもよいかと思った。

■活動の流れの工夫

<よかった点>

- ・メダルを渡すときBGMが流れ、流れも分かるしわくわく感が伝わるのが良かった。

《その他 感想等》

- ・自分が投球していないときも他の人を目で追っている人が多く、同じ場で活動している仲間だと感じているように見えた。
- ・それぞれの生徒の得点が入り、驚いたり喜んだりできるところがゲームとして面白いと思った。
- ・児童生徒を「～さん」と呼ぶようにしているところ。見習いたい。

(2) グループ協議

あすなろ分教室と、山目校舎わかば・中学部の今年度の研究テーマや課題、取り組みが類似していること、題材として同じ「ポッチャ」を取り上げ、研究授業を行ったことから、お互いの授業を見合い、合同の授業研究会を開催した。授業研究会では、下記のテーマで、あすなろ分教室やわか

ば・中学部に在籍する児童生徒を想定し、1グループ4人ずつのグループ討議を行い、発表しあった。

ア <協議テーマ>「人と関わりをもてるゲームのアイデアと、関わりを促す場の設定」

ゲームのアイデア	関わりを促す場の設定
<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを上上げるゲーム (空気圧や風などで) ・大きな的を息を合わせてみんなで倒す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴムを引っ張る、ポンプ(空気入れ)を2人以上で動かす。 ・渡す。(感染症対策:シートや筒を活用)
<ul style="list-style-type: none"> ・だるまさんがころんだ 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽や掛け声に合わせてフラフープ(エリア)に移動する。必ず2人以上で入る。全員鬼にタッチしたら終了。 ・フラフープにミッションを設ける。
<ul style="list-style-type: none"> ・すごろく 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールが複数ある。関わり合えるようなミッションをつくる。
<ul style="list-style-type: none"> ・キンボール ・風船バレー、風船はこび ・大玉転がし ・バルーン遊び ・玉落とし 	<ul style="list-style-type: none"> ・制限時間を設け、チームでボールを持つて的まで運ぶ。 ・決まった掛け声を掛け合って行う。 ・道具、教具の受け渡しを児童生徒で行う。 ・チーム分けを毎回変える。(くじ・生まれ月などでいろいろな人と関われるようにする) ・役割を明確化し、自分や他の人の役割を意識して活動する。
<ul style="list-style-type: none"> ・卓球台を使ったバレー ・フルーツバスケット ・合奏 ・鈴ひも 	

イ 助言

あすなる分教室、山目校舎わかば・中学部どちらの授業も常に言語化によるフィードバックが意識されていた。「誰が投げた」、「どんな結果」、「良かった点」について伝え続けていた。児童生徒それぞれの3観点についてのモチベーションを引き上げ続けていた。その具体的な表現の仕方は、日頃に授業で培われた技量である。その結果、児童生徒が人や物を意識できる土台になっている最も重要な点だと思う。

2 授業の共通点：視覚、聴覚、感覚に訴える教材の工夫。ゴール、ボールへいかに注目させるか、手ごたえについて考え、教材を工夫していた点(エリアを広くする、ゴールを自作するなど)、勝ち負けの明快さ(得点板・軍配方式)

ルールについて、あすなる分教室は運動会と同じ競技をあすなるタイムに採用し継続、わかば・中学部は前回の研究授業の意見を参考にルールを変更、実態に応じてルールを作る楽しさを教わった。個人的にルールの変更を柔軟に行ってよいと考える。ねらいが「人やものとの関わり」であり、学習はツール、面白いルールを作って楽しむことが大切。最後に大逆転するような面白いルールがあってもいい。先生たちの本気を児童生徒は感じている。先生たちが高いレベルのものを見せてもよかった。型にはまらず、先生たちも一緒に楽しめたら十分である。

集団学習の中での人との関わりについて、ボッチャは力の差があっても、対等に、真剣に競うことができる代表的なゲームツールである。交流籍交流で、保護者と、地域の方と、リモートで、など際限なく交流できる。特別支援学校は、少人数のため手厚い指導が受けられる反面、相

性が合わなくてもずっと一緒に学習していかなければならないという課題がある。良さと課題があるなかで、人との関わりのどこを明確にしていくのかを考えながら、今後、取り組んでほしい。人との関わりは、子どもたちにとって「過去」「現在」「未来」という時間軸とエリアの二つを考えながら、必要性が高い場の設定について意識しながら年間指導計画に反映させて取り組むことで、単発にみえても実は連続性のある取り組みになるのではない。

(3) オンライン学習について

現在、小学部・中学部・高等部各1名の児童生徒が、病室にてベッドサイド学習をしている。教師とマンツーマンでの学習が多いが、運動会や清明祭といった行事のときなどに、主治医から許可をいただき、学校へ登校して友達と一緒に活動している。限られた時間ではあるが、普段とは異なる環境で、たくさんの友達や教師と関わりながら学習する貴重な機会となっている。

昨年度からは、病棟とホールをつないでのオンライン学習に取り組み始め、集団学習への参加の回数を増やすことができた。今年度は、オンライン学習の回数をさらに増やし、ホールのにぎやかな雰囲気を感じながら、普段、関わることの少ない友達や教師に声を掛けてもらったり、一緒に音楽活動やゲームに参加したりなど、活動の幅を広げることができた。

ベッドサイドの児童生徒は、ホールの音やみんなの動きに興味をもって耳を傾けたり、目で追ったり、名前を呼ばれて反応するなど、刺激を受けながら学習に参加している様子がみられた。

また、ホールにいる児童生徒は、画面越しに友達をじっと見たり、手を振ったりなど意識している様子がみられた。その後、ビデオメッセージのやり取りをして、友達同士の関わりを深めながら行事の取り組みを行うなど、学習内容を広げることができた児童生徒もいた。

あすなる分教室在籍の児童生徒は、静養等でベッドサイド学習になる可能性がある。その際、オンライン学習で、ホールや教室の友達と学習できることが意欲の向上につながると考えられる。

オンライン学習の実績はまだ少なく、試行錯誤しながら取り組んでいるところではあるが、ベッドサイドとホールの児童生徒がより一体感を感じながら学習できるように、指導内容・支援の手立てを吟味し、次年度も実践を積み重ねていきたい。

<実施したオンライン授業>

月	行事・学習活動等	備考
4	入学・進級おめでとう会	
6	運動会①・② NS交流①	① 開閉会式練習 ②事後学習
1 1	音楽療法	
1 2	NS交流② クリスマス会	
1・2 3	○あすなるタイム(全3回) 卒業おめでとう会	○研究対象 ・オンライン授業予定

(○研究対象：自立活動 あすなるタイム「正月遊びをしよう」)

5 実践のまとめ

(1) 今年度の成果と課題 (○成果 ●課題)

- アセスメントチェックリストの活用と日々の授業から職員間で児童生徒の実態についての共通理解を図り、教材教具の工夫、場の設定の工夫など、きめ細かく指導・支援に生かすことができた。
- 研究授業・授業研究会をとおして、あすなる分教室について（児童生徒理解・あすなる分教室の指導の実際など）発信することができた。また、研究協議等でいただいた意見を授業に生かすことができた。午後グループの授業の生配信も好評だった。（授業を直接見に行けなくても、臨場感を感じながら参観できた）
- 集団学習として取り上げた行事や学習単元・題材、授業の取り組み方、学習活動の有効性などについて、整理・確認しながらすすめることができた。次年度に生かし、より充実した指導を目指したい。
- オンライン学習を増やしたことにより、直接会うことが少ない児童生徒も、共に学ぶ仲間であるという意識づけを行うことができた。
- 「あすなるタイム」については、継続して研究の対象とし、授業のもち方や取り組む単元・題材などを吟味しながら実践を積み重ねる。
- 行事や授業の取り組み方など、精選を行ったものに対して、2年次で取り組み、成果と課題を明らかにする。（夏祭り・クリスマス会）

(2) 次年度に向けて

- ・アセスメントチェックリストを継続して使用し、児童生徒の実態を共通理解するとともに、日々の授業の一助とする。
- ・今年度の課題に取り組むとともに、研究授業及び授業研究会を行い、実践のまとめに生かす。
- ・児童生徒一人一人の「豊かな学び」について共通理解を図る。

<資料>

広島県立福山特別支援学校 重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト